

IT21の会(平成16年7月)第79回議事録

日時:平成16年7月2日(金)18時30分~20時30分
場所:日本技術士会 荳手第二ビル 5階A・B会議室
出席者:19名
配付資料

- ・「システム開発委託を成功させるために」~システム監査によるアプローチ~(工藤司氏)
- ・委員・WGメンバの改選について (第8期役員)
- ・CPD中央講座「セキュリティ」「地震と安全」の案内 (黒澤兵夫氏)
- ・システム監査学会 第17回公開シンポジウムの案内 (黒澤兵夫氏)
- ・JSSAシステム監査学会 専門監査人資格認定制度のパンフレット (黒澤兵夫氏)
- ・MDIS 官公庁・自治体向け システム監査・支援業務のパンフレット (工藤司氏)
- ・IT21の会 第8期方針(案) (第8期役員)
- ・IT21の会7月例会 会計からの検討依頼 (清水孝光氏)

議 事

1. CPD中央講座とシステム監査学会の案内 黒澤兵夫氏
CPD中央講座「セキュリティ」(7月17日)、「地震と安全」(8月28日)の案内があった。
システム監査学会 第17回公開シンポジウムと専門監査人資格認定制度の紹介があった。
2. 「システム開発委託を成功させるために」~システム監査によるアプローチ~工藤司氏
システム監査とは、情報システムの諸問題を解決、あるいは未然に防ぐことにより、システムの信頼性・安全性・効率性を高めることを目的とし、独立かつ客観的に情報システムを点検・評価し、結果を報告する一連の活動である。
開発委託では、通常システム開発に次のリスクが加わる。委託元で開発作業体制・準備ができていない、委託元と委託先の開発に対する認識の不一致、委託元が委託先をコントロールできない。
開発委託における上記のリスクに対する対策として次のアプローチが有効である。
(A)開発管理フレームワークの活用 認識共有の仕組み
(B)並行監査(局面管理の監査) 課題の早期検出・対策
(C)開発管理支援 必要作業注力、対策推進
(D)リスクアプローチ 開発状況による監査重点
システム監査によるメリットは、開発管理面での外部体制・技術の活用、第三者による客観的な評価、開発委託先への牽制効果が挙げられる。開発委託元、委託先、監査担当の相互の信頼関係と役割の推進が重要である。
3. 8期役員在所信表明 第8期役員
吉川会長、宇佐美副会長、内藤運営役員、清水会計役員による所信表明が行われた。
今期の活動方針: ITをキーワードにしたテーマで、参画し、発信する楽しさを味わおう、遠隔地会員の参加支援を推進しよう、創立10周年の記念企画をしよう。
4. 会計からの検討依頼 清水孝光氏
郵便口座の代表者の変更や開設等がスムーズに行えるよう下記の提案があり承認された。
「郵便口座の代表者の変更や開設等の届出書類に、IT21の会の所在地の記載が必要な場合は、役員の現住所とすることができる。」
5. 委員、WGメンバの改選・補充 内藤雄介氏
8期移行、委員・WG改選等に伴い、メンバ募集を行った。引き続きMLで募集する。
以上 (記載者:嶋田弘僧 記)